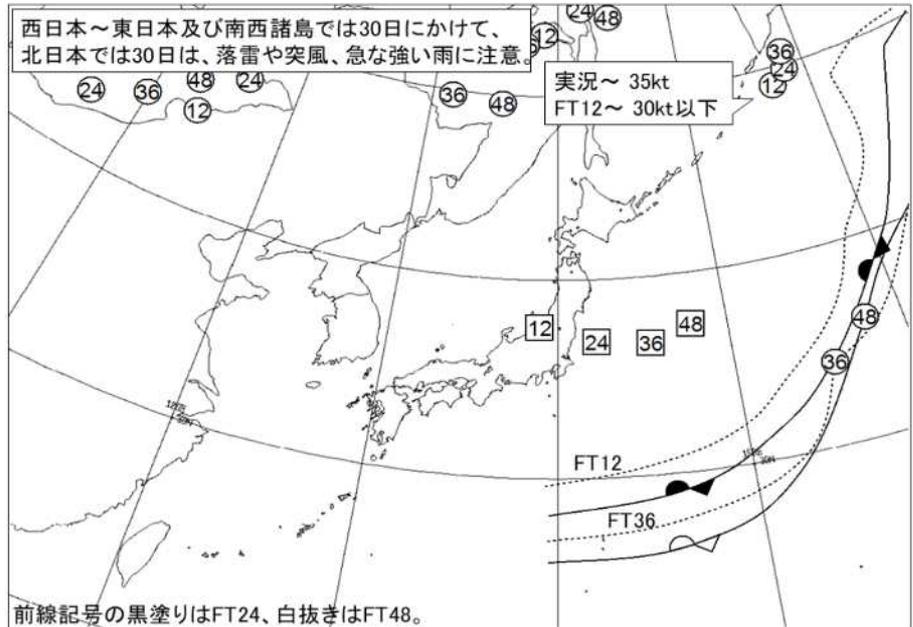


1. 実況上の着目点

- ① 500hPaでは、5880m以上の高気圧が日本の南～東シナ海～西日本付近を覆っている。また5760m付近のリッジがアムール川中流～中国東北區を東へ移動している。日本付近は日本海に中心を持つ高気圧に覆われて晴れている所が多く、気温が上昇して真夏日や猛暑日となっている所がある。
- ② 南西諸島では、①の高気圧縁辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となっており、海上を中心に対流雲が発達。雷を検知している所がある。
- ③ 前線が日本のはるか東～日本の南にのびている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 500hPa 5880m以上の高気圧は30日にかけてほとんど停滞。30日は北側や西側に勢力を拡大する。また、5760m付近のリッジはゆっくり東進し、30日はオホーツク海に達する。日本付近は30日にかけて、500hPa高気圧及びリッジに対応する高気圧に広く覆われて晴れる所が多い。全国的に日中は気温が上昇して真夏日となる所があり、西日本～東日本の内陸部を中心に猛暑日となる所もある。西日本～北日本及び南西諸島では30日にかけて熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また、日中の気温上昇に伴い、大気の状態が不安定となる。高気圧に覆われて発達した対流雲の組織化はないが、局地的に雷を伴って激しい雨の降る所がある。30日は高気圧の中心が日本の東に移動し、西日本～北日本では高気圧縁辺の下層暖湿気が流入しやすくなり、大気的不安定な領域が拡大する。西日本～東日本では30日にかけて、北日本では30日は落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ② 南西諸島では30日にかけて高気圧縁辺の下層暖湿気が流入しやすい状況が続くため、大気的不安定な状態が続き、雷を伴って激しい雨の降る所がある。落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の前線は、30日にかけて日本のはるか東～日本の南にのび、ゆっくり南下する。小笠原諸島では大気の状態が不安定となり、雷を伴ったやや強い雨の降る所がある。小笠原諸島では30日にかけて落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本～東日本の日本海側を中心に注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。